



豊かな書写指導のために

連載 新しい書写実践の試み ①

日常化を目ざした行書の実践

新しい指導を考える会

1 実践の趣旨

手で文字を書くことの伝達性について考えてみる。活字が溢れる現代の生活では、そうでなかった頃と比べてみると、手書きの文字の役割が形式的かつ視覚的な部分から、思いや感情のよつな内面を伝えるという中心的な部分に、より力を発揮するよつになっていると考えられる。一人の人が書く文字は唯一のものであることに価値があり、活字のように同じ文字を限りなく書くことはできない。そこに活字とは違う働きを見いだすことができるからである。

また、書くことによって人は思考し、記憶もしていることから、学習者にとって書くという行為は、学習を成立させるための一つの練習方法であるとも言える。中学生にとって、文字を書く機会は多くあり、文字を書くことが好きであると答える生徒もいる。しかし、その反面、文字を書くことが面倒であるとか、上手に書けないから書かない、といった「書くこと嫌い」が多いという現状も見逃すことができない事実である。九年間



第一時で使用したワークシート

の義務教育が終わる中学生の時期に、手で書く文字によって、心を伝えることの価値を体験させ、手で書いた文字について考える機会を与えることの重要性を痛感している。文字を書くことについて自分なりの考えをもち、手で書くことによって自己の日常の生活を向上させようとする意識も高まることを期待したい。

今回の実践は、年賀状を書くことを目的とし、学習事項の日常化をねらったものである。行書学習は中学校の国語科書写のメインともいっべき学習事項である。生徒の興味関心は高い反面、日常で毛筆を使うことがないという意味で、生徒にとっては難しいという感想が多く、そのハードルが高くなって、最後は、やっぱりうまく書けない……と終わることが多い。当然、日常的に行書を使ってみようと思う生徒は少ない。

そこで、今回は、行書の技能を得ることを目的とせず、学習事項を生かして手書きの年賀状を送り、手書きの効果について考えることをねらって授業を組んだ。手で書いて伝えることへの価値が体得できれば、日常の中で、学習事項を生かそうとする生徒も、きつと多くなるはずである。

2 授業の実際

行書で年賀状を書こう

〈目標〉行書の特徴を生かして年賀状を書く。

書写学習の要素（行書の特徴）

- A 点画が丸みを帯びることがある。
- B 点画の方向や形が変化する。

- C 点画が連続することがある。
- D 点画が省略されることがある。
- E 筆順が変化することがある。

〈指導計画〉（全2時間）

第一時……楷書と行書を比べて行書の特徴を確認する。

・行書と楷書の違いについて学ぶ。

第二時……手紙について学習し、相手に失礼のない手紙を書くための意識を高める。

- ・年賀状について知る。
- ・はがきの書き方について知る。
- ・行書の特徴を生かして年賀状を書く。

3 授業を終えて——振り返りカードによる自己評価

授業を終えた後、全員に「振り返りカード」を配り、生徒自身が学習の成果を確認できるようにした。項目として、次表（P32参照）の六つを掲げた。

「できた」「どちらとも言えない」「できなかった」の欄には、丸をつけさせるだけでなく、理由や感想も記入させるようにした。

生徒は、それぞれ率直な感想を述べており、ここでの学習の自己評価にとどまらず、次からの学習内容に向けた自身の目標を感じるものも少なくなかった。

項目	できた	どちらとも 言えない	できない
楷書で書くよりも速くなりましたか。			
点画が丸みを帯びたものになりましたか。			
点画の方向や形が変化しましたか。			
点画の連続がうまくいきましましたか。			
省略した部分の点画を意識して書けましたか。			
楷書とは違う筆順を覚えることができましたか。			

振り返りカード

- ・筆で年賀状を書くことがなかったから、いい体験になった。練習よりうまくいったよかったです。
- ・書写のように筆などを使わず、まだ上手に書けませんが、こういう経験をしていれば、多少は上手になっていくと思います。
- ・時間がなく、字の大きさがバラバラになってしまった。初めてだったけど、それなりにできたと思います。
- ・時間がなくて自分で納得のいく字が書けなかった。でも、やっぱり筆で字を書くのは、楽しいです。
- ・筆が苦手なので、ボールペンで書いた。
- ・とても、難しく大変だった。でも、おもしろかった。
- ・ずれたり、ミスが多かった。
- ・葉書が汚れてしまった。

4 成果と課題

今回は、書き文字の日常化をねらって、生徒が手書きで書くことの多い手紙（年賀状）を取り上げ、行書の学習と併せて実践した。

授業後の自己評価からは、「見た目もいいし、何より、気持ちが伝わるのがいい。」「とても緊張したが、相手の人が喜んでもらえるのが嬉しいです。」「日本人として、墨や筆を使いこなせるようにしたい。」「など、手書きの効果についての意識が高まった感想が書かれていたのは、一つの成果である。また、いつもは、年賀状は印刷して出すという生徒がほとんどで、出さないという生徒も見られるなか、筆書きの年賀状は相当緊張して書

〈生徒の感想例〉

- 手書き（毛筆）の年賀状について感想を述べたもの
- ・年賀状を筆で書くのはとても疲れてえらい（大変だ）。でも、見た目もいいし、何より、気持ちが伝わるのがいい。
- ・目上の人にすべて筆で年賀状を書くのは初めてだったので、とても緊張したが、相手の人が喜んでもらえるのが嬉しいです。
- 行書の特徴について感想を述べたもの
- ・筆で行書を書くのは難しい。
- ・前より速く書けるようになった。
- ・行書と楷書が混じってしまった。
- ・いつも使っている楷書とは違って、行書はとても難しいと思った。さらに、筆は、先が柔らかいし、墨の具合によって左右されやすくて、とても大変だった。日本人として、墨や筆を使いこなせるようにしたい。
- ・行書は難しいので、やはり楷書がいいと思った。
- ・行書で書けていないところがあった。
- ・楷書になってしまったところがあった。
- ・いつも楷書なので難しかった。
- 見栄えについて述べたもの
- ・字のバランスが悪かった（曲がってしまった）。
- ・さみしい年賀状の感じがする。
- ・筆が思うように進まなくて、あまり上手に書けなかった。たぶん真剣になりすぎて、姿勢が良くなかったんだと思う。
- その他
- ・まあ、うまく書けたと思う。

くことができたようだ。一つの経験を与えたという点で、今後の生活で書き文字について考える機会になったと考えている。

それに反して、行書を書くことの難しさや、自己評価のさまざまな場面でうかがうことができたことは、課題と言える。日常生活の中に筆書きすることがほとんどなくなつた今、行書のイメージが「難しい」になってしまつて残念である。そんな生徒のノートの文字は、速書きによって、自然と点画が連続していたりするのである。速書きでも文字を整えることができるようにするために、日常で使う行書の文字を学習する工夫が必要であることを強く感じている。

中学校の書写の時間は限られています。だからこそ効率の良い授業が求められます。そして書写力の日常化をもめざさなくてはなりません。ただ、手紙や色紙を書かせるだけでは、書式に触れることはできません。日頃の学習成果を生かすことにはつながりにくいと考えます。基礎・基本の学習を日常化するにはどうすればよいか、教師にとって大きな課題と言えるでしょう。

(M)